



チャットとプレゼンス

- [Webex メッセンジャーユーザ向けのブロッキングドメインのサポート](#) (1 ページ)
- [チャットボット](#) (2 ページ)
- [ブラウザクリック通話](#) (3 ページ)
- [カスタム顔文字](#) (5 ページ)
- [DND ステータスカスケード](#) (8 ページ)
- [Cisco Unified CM IM およびプレゼンスサービスのエンタープライズグループ](#) (9 ページ)
- [ファイル転送とスクリーンキャプチャ](#) (11 ページ)
- [位置情報の共有](#) (15 ページ)
- [Windows 上の保存されたチャットおよびファイルの場所](#) (16 ページ)
- [クラウド展開およびオンプレミス展開でのマルチデバイス メッセージング](#) (16 ページ)
- [People Insights](#) (18 ページ)
- [常設チャットルーム](#) (19 ページ)
- [シスコ ヘッドセットを使用したプレゼンスの同期](#) (27 ページ)
- [プレゼンス サブスクリプション要求のプロンプト](#) (27 ページ)
- [IM 用プッシュ通知サービス](#) (29 ページ)
- [ログイン時のチャットの復元](#) (30 ページ)
- [一時プレゼンス](#) (31 ページ)

Webex メッセンジャーユーザ向けのブロッキングドメインのサポート

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
—	可	—	—

Webex メッセンジャー ユーザは、特定のドメインの特定のドメインまたは連絡先を、[ブロック済み]リストに追加できるようになりました。その特定のドメインの連絡先で、ユーザの可用性ステータスを表示したりユーザにインスタントメッセージを送信したりすることはできません。

この機能で、承認されていないドメインからのスパムメッセージを防ぐことができます。組織間の承認されたドメイン間の通信のみを許可することによって、企業のコンプライアンスを維持します。

ステップ1 Jabber > 環境設定 (Preferences) > プライバシーを選択します。

ステップ2 [ポリシー (Policies)] セクションを選択し、[ブロックされたユーザの管理 (Managed People)]

ステップ3 ブロッキングリストに連絡先 ID またはドメインを追加します。

チャットボット

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

Jabber クライアントは、XMPP チャットボットとの双方向のやり取りに使用します。チャットボットは、Jabber ユーザのように表示され動作する自動化サービスです。Jabber ユーザは連絡先リストにチャットボットを追加して、ボットとチャット会話を始めることができます。

ビジネスプロセスを支援したり、質問に回答したり、エンターテインメントに役立つチャットボットを開発できます。ボットは、株価に変化があった場合や温度変化をレポートするマシンセンサなどのアラートメッセージを発行することはお手のものです。さらに高度なボットが、人工知能を使用して、ユーザと対話し、「ダラス支店で次の火曜日の会議室を予約して」のような質問を理解しようとします。

Cisco は、ボットをビルドする開発者向けの SDK を提供しています。SDK では、パブリックドメイン Botkit プロジェクトに基づいてボットをすばやく開発できるように Node.js フレームワークが使用できます。Cisco Jabber ボット SDK の概要については、Cisco Devnet を参照してください。

SDK を使用して開発したチャットボットを展開する場合、Cisco Webex Messenger または Cisco Unified Communications Manager で Jabber のユーザアカウントを作成する必要があります。ボットが IM を使用するようにプロビジョニングを行うのみです。

ボット作成後、Cisco Jabber ユーザはボットを連絡先リストに手動で追加したり、AdminConfiguredBot パラメータを使用してユーザの連絡先リストに自動的に追加したりしてください。AdminConfiguredBot パラメータは Android 版 Cisco Jabber ではサポートされていません。さらに、ボットが WhitelistBot パラメータを設定して、を許可し、Jabber ユーザーを検索して会議コールを開始したり、Cisco Jabber でミーティングをセットアップしたりできるようにします。Cisco Jabber では、ボットとのプレーンテキストおよびリッチテキストメッセージのみがサポートされています。

AdminConfiguredBot と WhitelistBot パラメータ設定方法の詳細は、『Cisco Jabber パラメータリファレンスガイド (Parameters Reference Guide for Cisco Jabber)』を参照してください。

ブラウザクリック通話

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ブラウザクリック通話により、次のブラウザからコールを開始できます。

- Internet Explorer (バージョン 9 以降)
- Mozilla Firefox (バージョン 38.0a1 以降)
- Google Chrome (バージョン 45 以降)

任意の番号、URI、または英数字文字列を選択して右クリックし、次のいずれかのオプションを選択することができます。

- [コール (Call)] : スペースおよび句読点が削除され、発信が開始されます。

- [編集してコール (Call with Edit)]: スペースおよび句読点が削除され、番号がハブ ウィンドウの[検索 (Search)]ボックスに表示されます。コールを開始する前に番号を編集できます。

ブラウザクリック通話は、CLICK2Xインストールパラメータによって有効になります。このパラメータをENABLED (デフォルト値) に設定すると、この機能が有効になります。この機能を無効にするには、CLICK2X インストールパラメータを無効化 (DISABLED) するように設定する必要があります。CLICK2X パラメータの詳細については、ご使用のリリースに対応する展開ガイドを参照してください。

Google Chrome からのクリック通話

Google Chrome ブラウザからのクリック通話を有効にするには、ユーザ入力が必要です。ユーザは、Cisco Jabber をインストールし、サインインした後に、Google Chrome ブラウザを再起動する必要があります。ブラウザが開くと、「Jabber Call」拡張機能のインストールの許可を求めるポップアップウィンドウが表示されます。[拡張機能を有効にする (Enable Extension)]をクリックしてインストールを許可する必要があります。拡張機能がインストールされます。これにより、ブラウザに表示される電話番号を選択し、右クリックすることによってコールできるようになります。

ユーザにマシンの管理者権限がない場合は、「Jabber 通話」拡張機能のインストールの許可を求めるポップアップウィンドウは表示されません。この場合は、システム管理者に問い合わせ、拡張機能をインストールしてもらう必要があります。

Mozilla Firefox からのクリック通話

Mozilla Firefox ブラウザからのクリック通話を有効にするには、ユーザ入力が必要です。ユーザは、Cisco Jabber をインストールした後に、Firefox ブラウザを再起動する必要があります。ブラウザが開くと、「JabberCallAddOn」アドオンのインストールの許可を求めるポップアップウィンドウが表示されます。[このインストールを許可する (Allow this installation)]および[続ける (Continue)]をクリックしてインストールを許可する必要があります。アドオンがインストールされます。これにより、ブラウザに表示される電話番号を選択し、右クリックすることによってコールできるようになります。

Internet Explorer からのクリック通話

Internet Explorer ブラウザからのクリック通話には、ユーザによる許可またはインストールは不要です。

カスタム顔文字

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

Jabber の絵文字ライブラリは、既存の絵文字を置き換えたりオリジナルの絵文字を作成したりしてカスタマイズできます。これを行うには、画像ファイルを Jabber の絵文字ディレクトリに追加して、新しいファイル定義を書き込む必要があります。

オリジナルの絵文字は、ユーザがローカルで行った Jabber インストールで同じカスタム画像および定義を共有している場合にのみ表示されます。

-
- ステップ 1** プログラムファイルで、Cisco Systems\Cisco Jabber ディレクトリに移動し、CustomEmoticons という名前のフォルダを作成します。
- ステップ 2** オリジナルの絵文字画像を、20×20 ピクセル、40×40 ピクセル、60×60 ピクセルの3つの解像度で PNG ファイルとして作成します。最良の結果を得るには、RGB カラー値とおよび透明な背景を使用してください。これらのファイルを CustomEmoticons フォルダーに保存し、example.png (20×20 ピクセル)、example@2.png (40×40 ピクセル)、example@3.png (60×60 ピクセル) の形式で名前を付けます。
- ステップ 3** 絵文字を emoticonDefs.xml ファイルと絵文字 emoticonRetinaDefs.xml ファイルで定義します。どちらも Cisco Systems\Cisco Jabber\Emoticons ディレクトリにあります。emoticonDefs.xml ファイルは、標準の顔文字 (20×20 ピクセル) を定義し、emoticonRetinaDefs.xml ファイルは、高-DPI ディスプレイ (40×40 ピクセル) の画像を定義します。ほとんどのシステムで通常の機能を実行するには、両方の定義の設定が必要です。これらのファイルの構造と使用可能なパラメーターの詳細については、「*Emoticon Definitions*」を参照してください。Jabber を再起動すると、新しい定義がロードされます。
-

CustomEmoticons フォルダで定義した顔文字は、デフォルトの Emoticons フォルダの顔文字の定義よりも優先されます。

ディレクトリ %USERPROFILE%\AppData\Roaming\Cisco\Unified Communications\Jabber\CSF\CustomEmoticons の絵文字は、Windows 版 Cisco Jabber の個々のインスタンスのカスタム絵文字定義を含み、インストールディレクトリの CustomEmoticons フォルダ内の絵文字の定義よりも優先されます。

顔文字の定義

Windows 版 Cisco Jabber は `emoticonDefs.xml` から顔文字定義をロードします。

次の XML の抜粋は、顔文字の定義ファイルの基本構造を示します。

```
<emoticons>
  <emoticon defaultKey="" image="" text="" order="" hidden="">
    <alt></alt>
  </emoticon>
</emoticons>
```

次の表に、カスタム顔文字を定義するための要素および属性を示します。

要素または属性	説明
<code>emoticons</code>	この要素には、すべての顔文字の定義が含まれます。
<code>emoticon</code>	この要素には、1つの顔文字の定義が含まれます。
<code>defaultKey</code>	この属性により、顔文字を描画するデフォルトキーの組み合わせが定義されます。 値として任意のキーの組み合わせを指定します。 この属性は必須です。 <code>defaultKey</code> は <code>emoticon</code> 要素の属性です。
<code>image</code>	この属性では、顔文字イメージのファイルを指定します。 値として顔文字のファイル名を指定します。顔文字イメージは、 <code>emoticonDefs.xml</code> と同じディレクトリに存在する必要があります。 この属性は必須です。 Windows 版 Cisco Jabber は、 <code>.jpeg</code> 、 <code>.png</code> 、 <code>.gif</code> を含む Chromium 埋め込みフレームワークでレンダリング可能なアイコンをサポートします。 <code>image</code> は <code>emoticon</code> 要素の属性です。
<code>text</code>	この属性では、[顔文字の挿入 (Insert emoticon)] ダイアログボックスに表示される説明文を定義します。 任意の Unicode 文字の文字列を指定します。 この属性はオプションです。 <code>text</code> は <code>emoticon</code> 要素の属性です。

要素または属性	説明
order	<p>この属性では、[顔文字の挿入 (Insert emoticon)]ダイアログボックスに顔文字が表示される順序を定義します。</p> <p>値として 1 から始まる序数を指定します。</p> <p>order は emoticon 要素の属性です。</p> <p>この属性は必須です。ただし、hidden の値が true である場合、このパラメータは有効になりません。</p>
hidden	<p>この属性では、[顔文字の挿入 (Insert emoticon)]ダイアログボックスに顔文字が表示されるかどうかを指定します。</p> <p>値として次のいずれかを指定します。</p> <p>true [顔文字の挿入 (Insert emoticon)]ダイアログボックスに顔文字が表示されないことを指定します。ユーザは、顔文字を描画するキーの組み合わせを入力する必要があります。</p> <p>false [顔文字の挿入 (Insert emoticon)]ダイアログボックスに顔文字が表示されることを指定します。ユーザは、[顔文字の挿入 (Insert emoticon)]ダイアログボックスから顔文字を選択するか、顔文字を描画するキーの組み合わせを入力することができます。これがデフォルト値です。</p> <p>この属性はオプションです。</p> <p>hidden は emoticon 要素の属性です。</p>
alt	<p>この要素を使用すると、キーの組み合わせを顔文字にマップできます。</p> <p>値として任意のキーの組み合わせを指定します。</p> <p>たとえば、defaultKey の値が :) である場合、alt の値として :-) を指定し、両方のキーの組み合わせで同じ顔文字を描画できるようにします。</p> <p>この要素はオプションです。</p>



メモ デフォルトの顔文字の定義ファイルには、ユーザが他のユーザからコールを要求できる次のキーの組み合わせが含まれています。

- :callme
- :telephone

これらのキーの組み合わせによって、callme の顔文字、または communicon が送信されます。この顔文字を受信したユーザは、アイコンをクリックして音声コールを開始できます。任意のカスタム顔文字の定義ファイルにこれらのキーの組み合わせを含めて、callme の顔文字を有効にします。

顔文字の定義の例

```
<emoticons>
  <emoticon defaultKey=":" image="Emoticons_Smiling.png" text="Smile" order="1">
    <alt>:-)</alt>
    <alt>^_^</alt>
  </emoticon>
  <emoticon defaultKey=":( " image="Emoticons_Frowning.png" text="Frown" order="2">
    <alt>:-(</alt>
  </emoticon>
</emoticons>
```

DND ステータスカスケード

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

次のシナリオは、IM プレゼンスサービスが Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service によってのみサポートされている場合に発生します。

ユーザが、Cisco Jabber クライアントで IM プレゼンスステータスを手動で**応答不可 (Do Not Disturb)**に設定した場合、ステータスは、特定のユーザが所有しているすべての電話機デバイスにカスケードダウンします。

ただし、ユーザが手動でステータスを **応答不可 (Do Not Disturb)**に設定した場合は、ステータスは、そのユーザが所有している他の電話機デバイスにカスケードしません。

Cisco Unified CM IM およびプレゼンスサービスのエンタープライズグループ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	—	—	—

ユーザは Cisco Jabber の連絡先リストにグループを追加できます。グループは企業の Microsoft Active Directory で作成され、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service にインポートされます。エンタープライズグループが設定され、Unified CM IM およびプレゼンスサービスで有効になると、Cisco Jabber ユーザはエンタープライズグループをクライアントの連絡先リストに追加できます。

エンタープライズグループの使用は、Expressway for Mobile and Remote Access でサポートされます。

Cisco Jabber でエンタープライズグループを有効化するための前提条件

- Cisco Unified Communications Manager リリース 11.0(1) 以降
- Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service リリース 11.0 以降

ユーザが連絡先リストにエンタープライズグループを追加できるようにセットアップする前に、サーバでその機能を設定する必要がありますので、「エンタープライズグループの有効化」セクションを参照してください。エンタープライズグループの詳細については、『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

制約事項

- この機能は、オンプレミス展開でのみ使用できる機能です。クラウド展開ではすでにエンタープライズグループをサポートしています。
- セキュリティグループは、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service 11.5 以降からサポートされています。
- ユーザが連絡先用の他のプレゼンスサブスクリプションを所有していない場合、100 人以上の IM 対応メンバーから成るエンタープライズグループでは、連絡先に対してプレゼンスはサポートされません。たとえば、ユーザが連絡先リストに追加した連絡先が 100 人以上

上から成るエンタープライズグループのリストにも含まれている場合は、その連絡先に対してプレゼンスが表示されます。IM 非対応のユーザは 100 人というプレゼンスの制限に影響しません。

- ネストされたグループはエンタープライズグループの一部としてインポートできません。たとえば、ADグループでは、埋め込みグループ以外のグループのメンバーのみがインポートされます。
- ユーザと ADグループが異なる組織単位 (OU) に存在している場合は、ADグループに連絡先を追加する前に、ADグループが存在する OU だけではなく、両方の OU を Cisco Unified Communications Manager と同期させる必要があります。
- 最小クエリー文字数がデフォルト値の 3 文字に設定されている場合、エンタープライズグループのユーザ検索で 2 文字のグループ名 (例: HR) は除外されます。CDI または UDS の最小クエリー文字数を変更するには、`MinimumCharacterQuery` パラメータの値を変更します。
- 名前の最初の 3 文字 (または、最小クエリー文字として定義された値) に特殊文字が含まれている場合、それらのエンタープライズグループは検索時に検出できません。
- 識別名を変更するとユーザに対する Cisco Jabber クライアントの動作が信頼できないものになるため、エンタープライズグループの識別名の変更は中心業務の時間外に行うことを推奨します。
- エンタープライズグループに変更を加える場合は、変更が適用されるように、変更後に Active Directory を Cisco Unified Communications Manager と同期させる必要があります。
- ディレクトリグループが Cisco Jabber に追加された場合、連絡先解像度がディレクトリサーバに突然の負荷をかけるため、プロフィール写真はすぐには表示されません。ただし、各グループメンバーを右クリックしてプロフィールを表示すると、連絡先の解像度が解決され、写真がダウンロードされます。
- 10.x クラスタとのクラスタ間ピアリング: 同期されたグループに 10.x クラスタ間ピアからのグループメンバーが含まれている場合、より高いクラスタ上のユーザは 10.x クラスタの同期されたメンバーのプレゼンスを確認できません。これは、エンタープライズグループの同期用に Cisco Unified Communications Manager 11.0(1) で導入されたデータベース更新が原因です。これらのアップデートは、Cisco Unified Communications Manager リリースの 10.x には含まれていません。より高いクラスタをホームにしているユーザが 10.x クラスタをホームにしているグループメンバーのプレゼンスを確認できることが保証されるには、より高いクラスタ上のユーザが連絡先リストに 10.x ユーザを手動で追加する必要があります。手動で追加されたユーザに関するプレゼンスの問題は存在しません。

UDS の制限 (モバイルおよび Remote Access 用 Expressway のユーザまたは UDS オンプレミス展開を使用するユーザに適用)

UDS を使用して接続している場合は、エンタープライズグループ検索機能がありません。そのため、ユーザは連絡先リストに追加するエンタープライズグループの正確な名前を把握しておく必要があります。

エンタープライズグループ名では大文字と小文字が区別されます。

AD フォレスト内の2つのエンタープライズグループが同じ名前である場合、グループを追加しようとするエラーが発生します。この問題は、BDI または EDI を使用しているクライアントには該当しません。

ファイル転送とスクリーンキャプチャ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ファイル転送とスクリーンキャプチャは、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service で有効にされます。Cisco Jabber クライアント コンフィギュレーション ファイルで指定される追加のパラメータがあります。これらのパラメータの詳細については、「ポリシーパラメータ」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service 9.x 以降でファイル転送とスクリーンキャプチャを設定するには、「ファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service リリース 10.5(2) 以降では、追加のファイル転送オプションが提供されます。

- ピアツーピア チャットについては、「ピアツーピア チャット専用のファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化」を参照してください。
- グループチャットとチャットルームについては、「グループチャットとチャットルームのファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化」を参照してください。
- 最大ファイル転送サイズを設定するには、「最大ファイル転送サイズの設定」を参照してください。

次のタスク

これらの追加のファイル転送方式をサポートしていない以前のバージョンの Cisco Jabber クライアントが展開に含まれている場合は、[マネージドおよびピアツーピアファイル転送 (Managed and Peer-to-Peer File Transfer)] を選択するためのオプションがあります。詳細については、

『*Configuration and Administration of IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化

これは、Cisco Unified Communication Manager IM and Presence Service 9.x、10.0.x、10.5.1 に適用されます。Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service で Cisco XCP Router サービスを使用し、ファイル転送とスクリーンキャプチャを有効または無効にすることができます。ファイル転送と画面キャプチャのパラメータはデフォルトで有効になっています。

ファイル転送とスクリーンキャプチャは、デスクトップクライアントとモバイルクライアントでサポートされます。

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [システム (System)]>[サービス パラメータ (Service Parameters)]の順に選択します。

ステップ 3 [サーバ (Server)]ドロップダウンリストから適切なサーバを選択します。

ステップ 4 [サービス (Service)]ドロップダウンメニューから [Cisco XCP Router] を選択します。

[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)]ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [ファイル転送を有効にする (Enable file transfer)]パラメータを探します。

ステップ 6 [パラメータ値 (Parameter Value)]ドロップダウンリストから適切な値を選択します。

メモ Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service 上の設定を無効にした場合は、クライアント設定内のファイル転送とスクリーンキャプチャも無効にする必要があります。

ステップ 7 保存を選択します。

グループチャットとチャットルームのファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化

転送されたファイルとスクリーンキャプチャは Jabber によってファイルサーバに保存され、メタデータはデータベースサーバに記録されます。この機能により、次のような機能が追加されます。

- チャットルームをサポートしない Cisco Jabber クライアントを使用したグループチャットでのファイル転送
- ピアツーピアでのファイル転送とスクリーンキャプチャ

始める前に

この機能は Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service リリース 10.5(2) 以降でのみ利用できます。

ファイル転送に関連付けられているメタデータをログに記録するように外部データベースを設定します。詳細については、『*Database Setup for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

転送されたファイルを保存するようにネットワークファイルサーバを設定します。詳細については、『*Configuration and Administration of IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [メッセージング (Messaging)] > [ファイル転送 (File Transfer)] の順に選択します。
 - ステップ 3 [ファイル転送設定 (File Transfer Configuration)] セクションで、[マネージドファイル転送 (Managed File Transfer)] を選択します。
 - ステップ 4 [マネージドファイル転送の割り当て (Managed File Transfer Assignment)] セクションで、クラスタ内のノードごとに外部データベースと外部ファイルサーバを割り当てます。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] を選択します。
-

次のタスク

ノードごとに：

- ノードの公開キーを外部ファイルサーバ上の `authorized_keys` ファイルにコピーします。ノードの IP アドレス、ホスト名、または FQDN を含める。
- **Cisco XCP ファイル転送マネージャ** サービスがアクティブになっていることを確認します。
- **Cisco XCP Router** サービスを再起動します。

DNS サーバ上で、`_cisco-uds` および `_collab` エッジサービス (SRV) レコードを使用して Jabber の自動ログインを設定します。SRV レコードの詳細については、「[サービス \(srv\) レコード](#)」を参照してください。

ピアツーピアチャット専用のファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化

Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service リリース 10.5(2) 以降でピアツーピアチャットのファイル転送を有効にします。ファイルとスクリーンキャプチャは、ピアツーピアチャットでのみ転送されます。ファイルまたはスクリーンキャプチャ情報は記録もアーカイブもされません。

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging)]>[ファイル転送 (File Transfer)]の順に選択します。
- ステップ 3** [ファイル転送設定 (File Transfer Configuration)]セクションで、[ピアツーピア (Peer-to-Peer)]を選択します。
- ステップ 4** 保存を選択します。
-

次のタスク

Cisco XCP Router サービスを再起動します。

ECM 添付ファイル設定 (ECM File Attachment Configuration)

エンタープライズコンテンツ管理者 (ECM) のファイル添付機能は、Cisco Jabber ファイル添付機能を拡張して、OneDrive または SharePoint Online からファイルをアップロードできるようにします。いま、このファイルを表示したり、表示の承認を受けた他の Jabber ユーザにチャット経由で送信したりすることができるようになりました。

ユーザーは添付ファイルを送信するときに、コンピューターまたは ECM アカウントからファイルをアップロードすることを選択できます。ユーザーは、組織内の他のユーザー、またはファイルにアクセスできる特定のユーザーにファイルを送信することを選択できます。受信者が ECM 添付ファイル付きのメッセージを取得したら、ファイルを表示または開く前に、その ECM サービスにサインインする必要があります。

ECM ファイル添付を設定する

- ステップ 1** ユーザの ECM 添付ファイルを有効にするには、コントロールハブに移動し、設定を選択します。
- ステップ 2** コンテンツ管理で、設定の編集を選択して Microsoft を選択して OneDrive と SharePoint オンラインで ECM を有効にします。
-

最大ファイル転送サイズの設定

最大ファイルサイズは Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service リリース 10.5(2) 以降でのみ利用できます。

始める前に

選択されているファイル転送タイプは、[マネージドファイル転送 (Managed File Transfer)]です。

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging)]>[ファイル転送 (File Transfer)]の順に選択します。
- ステップ 3** [マネージドファイル転送設定 (Managed File Transfer Configuration)]セクションで、[最大ファイルサイズ (Maximum File Size)]の値を入力します。
- ステップ 4** 保存を選択します。

次のタスク

Cisco XCP Router サービスを再起動します。

位置情報の共有

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ロケーションの共有を使用すると、ユーザは連絡先と自分のロケーションを共有できます。クライアントが新しいネットワーク接続を検出すると、その場所の名前を入力するように求めるプロンプトが表示されます。たとえば、"ホームオフィスの"または"サンノゼ"などがあります。そのネットワークに接続するとユーザのプレゼンスステータスの横にその名前が表示されます。位置情報の共有は、デフォルトでは有効になっています。

次のパラメータを使用して、ロケーションの共有を設定することができます。詳細については、『*Parameters Reference Guide*』を参照してください。

- **Location_Mode**: この機能が有効になっているかどうかを確認します。
- **LOCATION_MATCHING_MODE**: Jabber が現在のネットワークの場所を検出する方法を決定します
- **Location_Enabled**: クライアントインターフェイスに [位置情報 (location)] タブを表示するかどうかを決定します。

Showiconwhenmobileパラメータが有効になっている場合、ユーザがデスクトップとモバイルクライアントの両方にログインしているときは、デスクトップの場所だけが表示されます。

Windows 上の保存されたチャットおよびファイルの場所

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	—	可

ユーザが EnableAutosaveパラメータを使用して会話を終了するたびに、インスタントメッセージおよび転送ファイルを自動的に保存できます。このパラメータは、Windows と Mac のどちらにも適用されます。(Mac 動作については、*Parameters Reference Guide*を参照してください。)

Windows では、保存されているチャットおよびファイルのデフォルトの場所は `..\documents\MyJabberChats` と `..\documents\MyJabberFiles` です。ただし、AutosaveChatsLocation パラメータを使用して別の場所を指定するか、AllowUserSelectChatsFileDirectory パラメータを使用してユーザに独自の場所を選択させることもできます。ユーザが独自のディレクトリの場所を設定できるようにした場合、そのユーザ設定はシステムで定義済みの設定に優先します。これらの Windows 限定パラメータの詳細については、ご使用のリリースに対応する『*Parameters Reference Guide*』を参照してください。

クラウド展開およびオンプレミス展開でのマルチデバイスメッセージング

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

オンプレミス展開でのマルチ デバイスメッセージングには、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence 11.5 が必要です。

複数のデバイスにサインインしているユーザは、どのデバイスがアクティブの場合でも、各デバイスで送受信されたすべての IM を確認できます。通知は同期されます。あるデバイスで IM を表示すると、その IM はサインインしている他のデバイスでも既読と表示されます。この機能はデフォルトで有効になっていますが、Disable_MultiDevice_Message パラメータを使用して無効にすることができます。次の制限が適用されます。

- クライアントはサインインしている必要があります。サインアウトしたクライアントには、送受信された IM および通知は表示されません。
- ファイル転送はサポートされていません。ファイルは、ファイルを送信または受信したアクティブなデバイスでのみ使用できます。
- グループ チャットはサポートされません。
- AES 暗号化が必要である場合は、マルチ デバイス メッセージングを有効にできません。

主要機能	説明
マルチ デバイス メッセージングに対応しているアクティブな Jabber クライアント	その会話全体で送受信したメッセージを表示します。
マルチ デバイス メッセージングに対応し、サインインしている非アクティブな Jabber クライアント	その会話全体で送受信したメッセージを表示します。
マルチ デバイス以外のメッセージングに対応している Jabber クライアントと、AES 暗号化に対応している Jabber クライアント	送信済みメッセージは送信側デバイスのみに表示されます。受信メッセージはアクティブなデバイスのみに表示されます。

パラメータの詳細については、最新の『Parameters Reference Guide for Cisco Jabber』を参照してください。

Multiple Device Messaging の有効化

この設定手順は、オンプレミス展開に適用されます。

- ステップ1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、[IM and Presence サービス パブリッシャ (IM and Presence Service Publisher)] ノードを選択します。
- ステップ3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco XCP ルータ (アクティブ) (Cisco XCP Router (Active))] を選択します。
- ステップ4 [マルチデバイス メッセージングの有効化 (Enable Multi-Device Messaging)] ドロップダウンリストから [有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択します。
- ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

People Insights

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
—	—	対応	—

People Insights では、連絡先の拡張プロファイルが利用できます。連絡先カードが表示される場所であればどこでも、連絡先リスト、会話、通話履歴、Voice Mail 履歴からユーザーは People Insights にアクセスできます。。この機能を使用すると、公にアクセス可能な情報を各ユーザープロファイルで表示できます。

また、同じ組織内の連絡先の場合は、連絡先の社内ディレクトリ情報も表示できます。この情報は、社外のユーザーに対して可視化されません。ユーザーの総合情報には、公に入手した情報とは別のデータソースに企業のディレクトリ情報が格納されています。

ユーザー総合情報プロファイルを編集することによって別のデータを追加するオプションも選べます。一部またはすべてのユーザー総合情報プロファイルを非表示にするオプションも選べます。

ユーザーの総合情報では、送信中と保存中のいずれの場合もプロファイルデータが暗号化されません。この機能は一般データ保護規制 (GDPR) に準拠しています。詳細については、[People Insights とは](#) を参照してください。

ユーザインサイト (People Insights)

始める前に

展開時に次のような条件を満たしている場合は、ユーザインサイト (People Insights) を有効にすることができます。

- 共通アイデンティティ (CI が有効であるか、または CI がリンクされている) を使用します。
- ディレクトリの同期の有効にする

ユーザインサイト (People Insights) は現在英語のみです。

ユーザインサイト (People Insights) を有効にするには、コントロールハブに移動し、設定 > ディレクトリ同期およびユーザインサイト (People Insights) を選択して、ユーザインサイト (People Insights) 表示トグルをオンにします。

常設チャットルーム

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	—	—	—



- (注) クラウドの導入では、Webex Messenger グループのチャットまたは Jabber チームメッセージングモードを、永続的なチャットルームの代わりに使用します。

常設チャットでは、ディスカッションスレッドに引き続きアクセスできます。チャットに、その時点でのアクティブユーザがいない場合でも、ルームが保持されます。ルームは、システムからユーザが明示的に削除するまで使用できます。これらのルームで、ユーザは他の場所、国、タイムゾーンのチームメンバー、顧客、パートナーと参加できます。新しいユーザは、継続中の会話のコンテキストを迅速に取得できるため、リアルタイムでのコラボレーションが容易になります。

パーシステントチャットの設定

クライアントの常設チャットルームにアクセスする前に、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service で常設チャットを有効にして、セットアップします。常設チャットルームは、Webex Messenger モードまたは Jabber チームのメッセージモードでは利用できません。

始める前に

Cisco Jabber デスクトップクライアントの場合、常設チャットはCisco Unified Communications Manager IM and Presence Service 10.0 以降で使用できます。Cisco Jabber デスクトップクライアントの場合、常設チャットはCisco Unified Communications Manager IM and Presence Service 11.5 su5 で利用できます。

常設チャット機能をサポートするデータベース設定の詳細については、『*Database Setup for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。このタスクを続行する前に、データベース設定を実行する必要があります。

常設チャットでは、ローカルチャットメッセージのアーカイブを有効にしてください。Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service のローカルチャットメッセージのアーカイブは、[クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録を可能にする]設定を使用して有効にします。詳細については、『オンプレミス展開ガイド』の「*Enable Message Settings*」のトピックを参照してください。

複数のクライアントで Cisco Jabber にサインインする場合、メッセージを 1 回読み取ると、すべてのクライアントで読み取ったマークが付きます。

プッシュ通知サービスを有効にすると、Cisco Jabber チャットルームでプッシュ通知を受け取ります。この動作は、ユーザがデバイスから手動で Cisco Jabber を終了した場合でも継続されます。プッシュ通知の詳細については、[IM 用プッシュ通知サービス \(29 ページ\)](#) を参照してください。

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [メッセージング (Messaging)]>[グループチャットとパーシステントチャット (Group Chat and Persistent Chat)]と選択します。
 - ステップ 3 [パーシステントチャットの有効化 (Enable Persistent Chat)]を選択します。
 - ステップ 4 [キャパシティの設定 (Occupancy Settings)]セクションの[同時にルームに入れるユーザ数 (How many users can be in a room at one time)]と[同時にルームに入れる非表示ユーザ数 (How many hidden users can be in a room at one time)]が、ゼロ以外の同一の値であることを確認します。
 - ステップ 5 ご使用のパーシステントチャット展開に合わせて残りの設定を行います。Cisco は、次の表の常設チャット設定をお勧めします。

(注) 常設チャットルームは、作成時のセットアップを継承します。後で行った変更は、既存のルームには適用されません。これらの変更は、変更を有効にした後で、作成されたルームにのみ適用されます。

パーシステント チャット設定	推奨値	注記
プライマリグループチャットサーバのエイリアスをシステムで自動的に管理する (System automatically manages primary group chat server aliases)	無効	
パーシステントチャットの有効化 (Enable Persistent Chat)	[有効 (Enabled)]	
すべてのルームの参加および終了をアーカイブ (Archive all room joins and exits)	管理者指定 (Administrator Defined)	常設チャットでは、現在、この値を使用していません。
すべてのルームメッセージのアーカイブ (Archive all room messages)	[有効 (Enabled)]	
グループチャットのシステム管理者のみのパーシステントチャットルームの作成を許可する (Allow only group chat system administrators to create persistent chat rooms)	管理者指定 (Administrator Defined)	
許可されるパーシステントチャットルームの最大数 (Maximum number of persistent chat rooms allowed)	管理者指定 (Administrator Defined)	
データベース接続数	デフォルト値	
データベース接続のハートビート間隔 (秒) (Database connection heartbeat interval (seconds))	デフォルト値	
パーシステントチャットルームのタイムアウト値 (分) (Timeout value for persistent chat rooms (minutes))	デフォルト値	
許可されるルームの最大数 (Maximum number of rooms allowed)	デフォルト値	
デフォルトではルームはメンバー専用です (Rooms are for members only by default)	無効	
ルームのオーナーは、ルームをメンバー専用にするかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not rooms are for members only)	[有効 (Enabled)]	Cisco Jabberがこの値を 有効 にする必要があります。
他のユーザをメンバー専用ルームに招待できるのはモデレーターのみです (Only moderators can invite people to members-only rooms)	[有効 (Enabled)]	Cisco Jabberがこの値を 有効 にする必要があります。

パーシステント チャット設定	推奨値	注記
ルームのオーナーは、他のユーザをメンバー専用ルームに招待できるのはモデレーターに限定するかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not only moderators can invite people to members-only rooms)	[有効 (Enabled)]	
ユーザは自分自身をメンバーとしてルームに追加できます (Users can add themselves to rooms as members)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームのオーナーは、ユーザが自分自身をメンバーとしてルームに追加できるようにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether users can add themselves to rooms as members)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルーム内にいないメンバーや管理者がルームに表示されたままです (Members and administrators who are not in a room are still visible in the room)	[有効 (Enabled)]	Cisco Jabberでは、このセットアップを有効にする必要があります。
ルームのオーナーは、ルーム内にいないメンバーや管理者がルームに表示されたままにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether members and administrators who are not in a room are still visible in the room)	[有効 (Enabled)]	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームは古いクライアントと下位互換性があります (Rooms are backwards-compatible with older clients)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームのオーナーは、ルームが古いクライアントと下位互換性があるかようにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether rooms are backwards-compatible with older clients)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
デフォルトで、ルームは匿名です (Rooms are anonymous by default)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットでサポートしていません。Cisco Jabberは匿名ルームに参加できません。
ルームのオーナーは、ルームを匿名にするかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not rooms are anonymous)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットでサポートしていません。Cisco Jabberは匿名ルームに参加できません。

パーシステント チャット設定	推奨値	注記
他のユーザをルームに招待できるユーザの最低参加レベル (Lowest participation level a user can have to invite others to the room)	デフォルト値	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームのオーナーは、他のユーザをルームに招待できるユーザの最低参加レベルを変更できません (Room owners can change the lowest participation level a user can have to invite others to the room)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
同時にルームに入れるユーザ数 (How many users can be in a room at one time)	管理者指定 (Administrator Defined)	シスコはデフォルト値を使用することを推奨します。
同時にルームに入れる非表示ユーザ数 (How many hidden users can be in a room at one time)	管理者指定 (Administrator Defined)	
デフォルトのルームの最大キャパシティ (Default maximum occupancy for a room)	デフォルト値	
ルームのオーナーは、デフォルトのルームの最大キャパシティを変更できます (Room owners can change default maximum occupancy for a room)	デフォルト値	
ルーム内からプライベートメッセージを送信できるユーザの最低参加レベル (Lowest participation level a user can have to send a private message from within the room)	デフォルト値	
ルームのオーナーは、ルーム内からプライベートメッセージを送信できるユーザの最低参加レベルを変更できます (Room owners can change the lowest participation level a user can have to send a private message from within the room)	デフォルト値	
ルームの話題を変更できるユーザの最低参加レベル (Lowest participation level a user can have to change a room's subject)	モデレータ (Moderator)	
ルームのオーナーは、ルームの話題を変更できるユーザの最低参加レベルを変更できます (Room owners can change the lowest participation level a user can have to change a room's subject)	無効	

パーシステント チャット設定	推奨値	注記
メッセージからすべてのXHTMLフォーマットを削除 (Remove all XHTML formatting from messages)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームのオーナーは、XHTMLフォーマットの設定を変更できます (Room owners can change XHTML formatting setting)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
デフォルトで、ルームの議論を管理 (Rooms are moderated by default)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームオーナーは、デフォルトでルームをモデレータ管理ルームにするかどうかを変更できません (Room owners can change whether rooms are moderated by default)	デフォルト値	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
アーカイブから取得できるメッセージの最大数 (Maximum number of messages that can be retrieved from the archive)	デフォルト値	
デフォルトでチャット履歴に表示されるメッセージ数 (Number of messages in chat history displayed by default)	管理者指定 (Administrator Defined)	Ciscoでは15から50の値を推奨しています。[デフォルトで表示されるチャット履歴のメッセージ数 (Number of messages in chat history displayed by default)]は、過去に遡って常設チャットルームに適用することはできません。
ルームのオーナーはチャット履歴に表示されるメッセージ数を変更できます (Room owners can change the number of messages displayed in chat history)	デフォルト値	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。

次のタスク

常設チャットのクライアント固有のパラメータを設定していることを確認します。

- **デスクトップクライアント:** Persistent_Chat_Enabledを**true**に設定します。
- **モバイルクライアント:** Persistent_Chat_Mobile_Enabledを**true**に設定します。

チャットルームでのファイル転送を有効にします。詳細については、『*Enable File Transfer and Screen Captures for Group Chats and Chat Rooms*』を参照してください。

常設チャットルームの管理とモデレータ管理

Jabber クライアントでは、ルームの作成、モデレータの委任、メンバーの指定を行うことで、常設チャットルームを管理できます。Jabber は、ルームを作成するノードを自動的に選択します。また、上書きや、特定のノードの指定が可能です。管理者およびモデレータは常設チャットルーム内の特権ユーザです。IM and Presence サーバー上で管理者になっているサービスノードの常設チャットルームを管理できます。

管理者機能

管理者は、ハブクライアント ウィンドウの [パーシステント チャット (Persistent Chat)] の [すべてのルーム (All Rooms)] タブから次のタスクを実行できます。

- ルームの作成。ルームを作成すると、作成者は自動的にルーム管理者になります。
- チャット ルームの最大 30 名のモデレータ (ルームのオーナーになる) の定義および変更
- ルーム名の指定および変更。
- ルームの最大参加者数の定義。この数は、すでにルームに参加している参加者数未満にはできません。
- ルーム メンバーの追加および削除。
- 参加者のブロック、削除、および取り消し。
- ルームの破棄 (サーバから削除されますが、履歴は削除されません)。



(注) 管理者は、モバイルクライアント用 Cisco Jabber でルームを作成したりモデレータに追加または削除したりできず、参加者をブロックまたは取り消しを行うこともできません。

モデレータの機能

管理者は、1 つの常設チャットルームごとに最大 30 名までモデレータを定義できます。モデレータは次のタスクを実行できます。

- ルームの主題の変更
- メンバーの編集 (追加、削除、入出禁止など)

ルームの作成

会議室を作成するときに、これらのプロパティを設定できます。

- ルーム名 (必須、最大 200 文字)
- 説明

- ルームのタイプ（パブリックまたは限定的）
ルームの種類を定義した後は、どのユーザもそれを変更することはできません。
- Location
会議室を作成するノードを決定します。詳細については、[常設チャットルームの負荷分散（26 ページ）](#) を参照してください。
- マイルーム（My Rooms） タブにルームを追加かするかどうかを指定します。
- 最大 30 名のモデレータ（ルームの司会をするために有効な Jabber ID を持っている必要のある人物）の追加
- ルーム パスワード

ルームを作成すると、そのルームに、すぐにまたは後で、メンバーを追加できます。[すべての会議室（All Rooms）] リストを更新して、利用可能な会議室に新しい会議室を表示します。

常設チャットルームの負荷分散

新しい常設チャットルームを作成すると、Jabber はデフォルトでランダムなノードにルームを割り当てます。[場所（Location）] ドロップダウンから特定のノードに会議室を指定することもできます。

参加者が同じ地域にいる場合、ホームクラスタ内に会議室を作成すると、より良いパフォーマンスが得られます。Jabber にホームクラスタに永続的なチャットルームを指定させることができます。[新しい会議室（New Room）] ダイアログの [場所（Location）] ドロップダウンで、[自動選択（Automatically select）] から選択できます。



(注) この機能を使用するには、IM and Presence Service リリース 14 SU 1 が必要です。

常設チャットルームのパスワードの有効化

パスワード保護された常設チャットルームは、ユーザが Jabber セッション内のルームに入るときに、パスワードを入力する必要があることを意味します。パスワード保護されたルームは XMPP 標準機構の XEP-0045 仕様に準拠しています。

- ステップ 1** ルームのパスワードを設定するには、ハブウィンドウの [チャットルーム（Chat Rooms）] タブから、[すべてのルーム（All rooms）] > [新しいルーム（New room）] > [パスワード（Password）] の順に選択します。
- ステップ 2** ルームのパスワードを変更するには、チャットルームを開いて、[ルームの編集（Edit Room）] をクリックし、[パスワード（Password）] を選択してから、パスワードを編集して保存します。

制約事項

Disable_IM_History パラメータを無効にすると、それは永続的なチャットルームの @メンション 機能に影響します。

シスコ ヘッドセットを使用したプレゼンスの同期

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

Jabber 12.9 よりも前のリリースでは、デスクトップクライアントが一部のシスコヘッドセットのプレゼンス LED をオン/オフにして、通話中に表示することができます。Jabber 12.9 では、ヘッドセットのプレゼンス LED を手動で切り替えようとする、Jabber は、自分のプレゼンスを DND に設定することによって、その変更を反映することができます。

プレゼンス サブスクリプション要求のプロンプト

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

社内の連絡先からのプレゼンスサブスクリプション要求のプロンプトを有効、無効のいずれかにすることができます。クライアントは、社外の連絡先からのプレゼンスサブスクリプション要求には、ユーザに許可を求めるプロンプトを常に表示します。

ユーザは、クライアントのプライバシー設定を次のように指定します。

社内（Inside Your Organization）

ユーザは社内の連絡先を許可するかブロックするかを選択できます。

- ユーザがプレゼンス サブスクリプション要求を許可することを選択し、
 - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする（**Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval**）]を選択した場合、クライアントはユーザにプロンプトを表示せずに、すべてのプレゼンス サブスクリプション要求を自動的に許可します。
 - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする（**Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval**）]を選択しない場合、クライアントはすべてのプレゼンス サブスクリプション要求でユーザにプロンプトを表示します。
- ユーザが連絡先をブロックすることを選択した場合、既存の連絡先のみがそれらのユーザの在席ステータスを参照できます。つまり、ユーザのプレゼンスにサブスクライブ済みの連絡先のみが在席ステータスを確認できます。



- (注) 組織内で連絡先を検索する際は、組織内のすべてのユーザの一時的な在席ステータスが表示されます。しかし、ユーザ A がユーザ B をブロックした場合、ユーザ B には、検索一覧内のユーザ A の一時的な在席ステータスは表示されません。

社外（Outside Your Organization）

ユーザは、社外の連絡先に対する処理を次のオプションから選択できます。

- クライアントがプレゼンス サブスクリプション要求ごとにプロンプトを表示する。
- 既存の連絡先のみが在席ステータスを参照できるよう、すべての連絡先をブロックする。つまり、ユーザのプレゼンスにサブスクライブ済みの連絡先のみが在席ステータスを確認できます。

始める前に

この機能は、オンプレミス展開でサポートされ、Cisco Unified Communications Manager リリース 8.x 以降でのみ利用できます。

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [プレゼンス（Presence）] > [設定（Settings）] の順に選択します。

[プレゼンスの設定（Presence Settings）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする (Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval)] を選択し、プロンプトを無効にして、社内からのすべてのプレゼンス サブスクリプション要求を自動的に許可します。

このオプションには、次の値があります。

- **[選択済み (Selected)]** : クライアントはプレゼンスサブスクリプション要求に対してユーザにプロンプトを表示しません。クライアントはユーザにプロンプトを表示せずに、すべてのプレゼンスサブスクリプション要求を自動的に許可します。
- **クリア済み (Cleared)** : クライアントは、プレゼンスサブスクリプション要求を許可するかどうか尋ねるプロンプトをユーザに表示します。この設定では、ユーザの在席ステータスを社内のほかのユーザが見られる状態である必要があります。

ステップ 4 保存を選択します。

IM 用プッシュ通知サービス

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
—	—	あり	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	—

IM のプッシュ通知サービスは、Cisco Jabber が非アクティブになった場合、または終了された場合、ユーザによってクローズされた場合でも、Cisco Jabber に新しい IM 通知を転送します。Cisco Jabber は、クラウドおよびオンプレミスの展開モード用プッシュ通知サービスをサポートしています。Cisco Jabber のサポート対象:

- iPhone and iPad 版 Apple プッシュ通知サービス (APNs)
- Android 版 Firebase クラウドメッセージング (FCM)

オンプレミスおよびクラウドの展開用のプッシュ通知サービスを導入するには、「プッシュ通知導入ガイド」 (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>) を参照してください。

Apple プッシュ通知 (APN) のプッシュ通知サービスを受け取るには、ポート 5223 および 443 が開いている必要があります。Firebase クラウドメッセージング (FCM) のプッシュ通知サービ

スを受け取るには、ポート 5228、5229、5230、443 が開いている必要があります。ポートの詳細については、『*Planning Guide for Cisco Jabber*』の「*Ports and Protocols*」のセクションを参照してください。

プッシュ通知サービスを有効にするには、パラメータ `Push_Notification_Enabled` (iOS 向け) および `FCM_Push_Notification_Enabled` (Android 向け) を設定する必要があります。このパラメータの設定の詳細については、最新版『*Parameter Reference Guide for Cisco Jabber*』を参照してください。

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber リリース 12.1 以降、この機能は、エンドツーエンドの暗号化されたインスタントメッセージと Jabber ツー Jabber のコール向けの高度暗号化標準 (AES) をサポートしています。



(注) iOS 上の Jabber MAM のクライアントは、IM 向けのプッシュ通知はサポートせず、ボイスコールのプッシュ通知のみをサポートします。

ログイン時のチャットの復元

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

この機能を使用すると、開いているチャットセッションを次回のサインイン時に復元するかどうかを指定できます。これは 1:1 チャットにのみ適用されます。

デスクトップクライアントの場合、この機能は `RestoreChatOnLogin` パラメータを使用して設定します。このパラメータが `true` の場合、クライアントの [全般 (General)] タブにある [開いている会話を記憶する (Remember my open conversations)] チェックボックスが選択されます。このチェックボックスは、ユーザが初めて Cisco Jabber にサインインした際に、デフォルトでオフになっています。

モバイルクライアントの場合、この機能は `RememberChatList` パラメータを使用して設定されます。パラメータをオンに設定すると、ユーザのチャットリストは保存され、Jabber を再起動した後に復元されます。また、チャットリストの保存のオプションもクライアントで使用できます。

このパラメータの詳細については、ご使用のリリースに対応する『*Parameter Reference Guide*』を参照してください。

一時プレゼンス

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

プライバシー制御強化のために一時プレゼンスを無効化します。このパラメータを設定すると、Cisco Jabber がユーザの連絡先リスト内の連絡先にだけアベイラビリティ ステータスを表示します。

始める前に

この機能は、オンプレミス展開でサポートされ、Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以降が必要です。

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** プレゼンス > 設定 > 標準設定 を選択します。
- ステップ 3** [アドホック プレゼンス サブスクリプションを有効にする (Enable ad-hoc presence subscriptions)]チェックボックスをオフにして、[保存 (Save)]を選択します。

Cisco Jabber は一時的なプレゼンスを表示しません。ユーザは、各自の連絡先リスト内の連絡先のみのアベイラビリティ ステータスを確認できます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。